



国際交流員 レポートのヨラム

「雪」

●問=地方創生課 Tel.23-1148

皆さん、冬といえば何を思い浮かべますか。小林市では寒くなり、雨もあまり降らなくなりますね。あとは、お正月でしょうか。それともおでんやこたつでしょうか。私の場合は、ドイツで一番大切なお祭りであるクリスマスと、小林市ではほとんど見ることのない雪です。

雪合戦をしたり、雪だるまを作ったり、そりに乗ったりといった冬遊びは、子どもの頃によくしました。もちろん楽しい思い出ですが、必ずしもしないと落ち込むというわけではありません。

ただ、白い毛布のような雪に包まれた道を散歩することには、少し憧れるようになりました。

幸いにも、その願いをかなえる簡単な方法がありました。小林市では雪が降らないので、雪が降る場所に行けばいいのです。そこで、2月の初めに6年ぶりに札幌へ行ってきました。1年で一番寒い時期かもしれませんが、毎年2月に開催される「さっぽろ雪まつり」を目的にした旅でした。



この祭りでは、雪や氷で作られた彫像が公共の場に展示されています。彫像の大きさはもちろん、ユニークなモチーフや細部まで精巧に作り込まれた様子を見て、いったいどうやって雪で作ったのだろうかと思いました。

別の日には、北海道神宮にお参りました。神宮へ向かう道はいくつかありますが、森を通る道を選びました。雪は降っていませんでしたが、たくさん積もっていて、日差しが差し込み、森も神社の屋根も、積もった雪が欠点のない一枚の布のように広がっていて、まるで冬が描いた絵のようでした。

3日間の旅行を終え、比較的暖かい小林市に戻ってきましたが、雪への憧れはひとまず満たされました。

新市誕生20周年

小林市は今年、新市誕生20周年の節目の年を迎えます。

平成18年3月20日に旧小林市と須木村が合併してから20年となります。

この間に野尻町との合併や全国和牛能力共進会の連覇をはじめ、さまざまな分野での市民の皆さまの活躍により発展を遂げてきました。

一方で、口蹄疫の発生、新燃岳の噴火、台風、豪雨、コロナ禍など、想像だにできなかったさまざまな困難もありました。

近年は、大地震が頻発し、東日本大震災や熊本地震、そして能登半島地震など大きな被害があったことは記憶に新しいところです。姉妹都市である能登町も被災し、職員を派遣するなど、できる限りの支援を継続しております。

これらの困難に対し、ともに乗り越えた市民の皆さまのご理解とご協力に感謝申し上げます。そして、現在直面するさまざまな課題がありますが、これまでの経験を踏まえながら取り

組んでいく必要があると考えております。

小林市では、令和8年度からのまちづくりを「第3次小林市総合計画」に沿って進めていきます。

今後、人口減少や少子高齢化が進行することが考えられますが、あらゆる分野において活性化が図れるように、そして、将来都市像である「みんなであなむ 笑顔あふれる じょじょんよかとこ小林市」の実現に向け、市民が元気に笑顔で暮らせる持続可能なまちづくりの推進を図ってまいります。

宮原市長のコラム

「信念を貫く」

Check!
 Volume.35

